

## 四国アイランドリーグ～球場のエンターテインメント化～

大阪体育大学 富山ゼミ 2

○川原林 拓斗 久高 平次 松本 紗永子

久保 璃子 原田 真司 尾花 泰紀 水野 雄斗

### 1. 緒言

現在日本の独立リーグには、四国アイランドリーグ plus、BC リーグ、BASEBALL FIRST LEAGUE などがあり、地域貢献形スポーツリーグとして活動している。最近では元阪神タイガースで、MLB ではレンジャーズやカブスでプレイした藤川球児選手（34）が四国アイランドリーグ plus に所属する高知ファイティングドッグスに入団し話題となった。NPB や MLB で活躍していた有名選手が、独立リーグに入団することはリーグの刺激になり、独立リーグの知名度も上がることが予想される。また実際に藤川球児選手の高知ファイティングドッグス入団を受けて、四国アイランドリーグの存在を知った人も少なくないだろう。しかしながら、チームの集客やマネジメントにはまだまだ課題が多く、リーグが役割として掲げる「1. 地域の人たちに私たちのチームとして応援していただき、地域の賑わいづくりに貢献します」については、十分達成されているとは言えないのが実態である。野球の本場であるアメリカ合衆国においては、MLB やマイナーリーグの他にも独立リーグが存在し、手軽なスポーツ観戦の場として様々なスポーツリーグとの共存を果たしている。そこで、私たちは独立リーグの中でも四国アイランドリーグ plus に焦点をあて、観戦者を増やすための方策について提案を行う。

### 2. 現状

図 1 は 2014 年の四国アイランドリーグ Plus の一試合あたりの観客動員数を示したグラフ(四国アイランドリーグ資料 2015)である。図によると、一試合の平均観客動員数がリーグ平均で 563 人となっている。また、一試合あたりの最大観客動員数は 2448 人であるが、同年の NPB の試合でもっとも観客動員数が少なかった、4 月 18 日（金）の千葉ロッテマリーンズ対福岡ソフトバンクホークスの試合でさえ 7311 人となっており、NPB に比べると独立リーグの観戦者数の少なさが一目瞭然である。

現在四国アイランドリーグの観客は高齢者が多く見られ、若者から中年層への人気が少ないと考えられる。さらに、上記で述べたように一試合の平均観客動員数が少なく、球場内の盛り上がりには欠け若い世代のリピーター獲得の大きな妨げとなっていると考えられる。したがって、独立リーグの人気および知名度を上げるためには、野球以外の分野にも視野を広げ、さまざまな志向を持った人たちを集客し、多種目、多世代、多志向な球場を提供する、「四国アイランドリーグ～球場のエンターテインメント化～」が求められる。

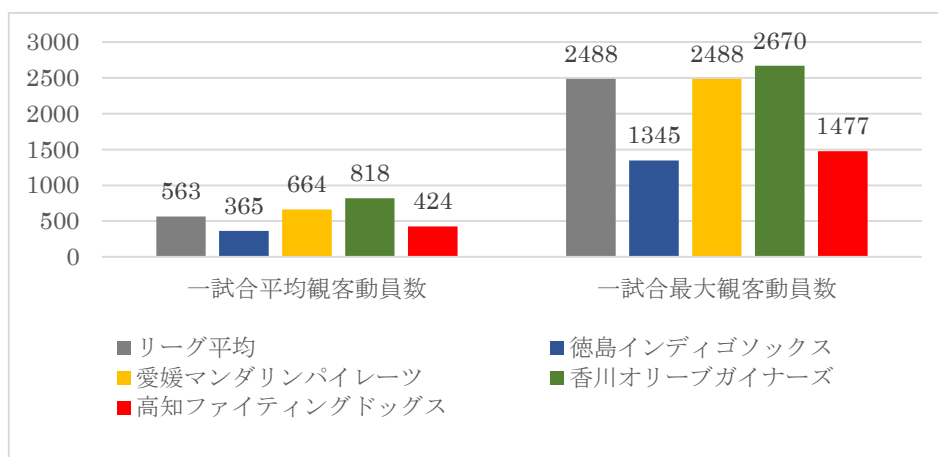


図1 2014年度 四国アイランドリーグ1試合観客動員数からのデータ

### 3. エンターテインメント化とは？

エンターテインメントの一般的な意味合いとしては、楽しませてくれるものや、芝居、演芸、音楽、パーティーなどの催しものことをさす。またその範囲はとても広く、さまざまな世代に向けて展開されるイベントなど、エンターテインメント業界の持つ集客力はとても驚異的だといえる。たとえば、エンターテインメントの創造を主軸に活動している団体として、株式会社LDHが代表として挙げられる。同社は、ダンスボーカルグループのEXILEを筆頭にエンターテインメントを社会に発信している。そのコンテンツとして、アーティスト、タレント、ショッピング、スクール、アパレル、キッチンなど多種目、多世代、多志向のスタイルにより、多くの人々の支持を得ている。この様なスタイルを独立リーグの試合運営に向けて導入することで、さまざまな年齢層のターゲットを球場に引き寄せることができると考えられる。

## 4. 提言

### 4. (1) 新しい球場のスタイル

現在の独立リーグの一般的な観戦スタイルはチケットを購入し、スタンドに入れば後は席についてただ観戦するだけにとどまっている。もっとも、野球観戦を望む観客はそうあるべきであるが、NPBのような派手な応援団や、決まったルーティーンが欠けているため、どうしてもスタンドが閑散として見えてしまう。

一方で、アメリカの独立リーグであるアメリカン・アソシエーション・リーグのセントポール・セインツの事例では、球場のスタンドが公園の広場のような役割を果たしており、ジャグジーに入りながら観戦ができる「ジャグジー席」や散髪をしながら観戦が出来る「散髪席」などが存在しており、「楽しいことは良いことだ (Fun is Good)」のコンセプトの元で、球場に遊び心が加えられている形になっている。おそらく、アメリカの独立リーグの観客は野球を観戦するという楽しみのほかにも、球場全体を包み込む独特の雰囲気を楽しむ

うという楽しみ方を知っている。つまり野球にかかわらず、楽しいと思うことは一度取り入れてみる。こういったスタイル運営により、セインツの平均観客動員数は約 7000 人とメジャーリーグの AAA の平均値 6302 人をも大きく上回る人気を誇る。つまりこの球場の雰囲気を変えることが観客動員数を増加させる最初の一步になるだろう。そこで、私たちは新しい球場のスタイルとして、さまざまなコンテンツにより観客を取り巻くことで球場への定着を狙い球場をエンターテイメント化することを四国アイランドリーグ plus および日本の独立リーグチームへ対して提言する。

#### 4. (2). ア コンテンツ 1「居酒屋」

成人向けのアプローチとしてアルコールの提供は欠かせないものであるといえる。スポーツ観戦とアルコールは相性がよく、高知ファイティングドッグスの球場運営においても、ビール飲み放題やビールセットの販売などの取り組みを行っていた。しかし、観客に対しての有効なアプローチにはいたらなかった。

そこで、球場のスタンド席に一定のエリアを複数設け、居酒屋営業を希望するゲストに自由に営業してもらった新たなシステムを導入する。場所の提供と宣伝効果を加味して商品代を低価格で提供してもらうようにすることで、成人をターゲットにした観客動員数増加につなげる。

#### 4. (2). イ コンテンツ 2「マンガ・アニメ」

J2 のギラヴァンツ北九州では、8 月 23 日(日)ホームゲームでの「漫画フェスティバル」の開催を記念して、連載開始から 30 周年を迎えた「シティーハンター」とのコラボチケットを発売することで新たな集客戦略を組み込んだ。そこで、私たちはさまざまなジャンルが存在するマンガ・アニメの多様性に注目し、出版社や著者、テレビ局などと提携することで新しい球場のスタイルを提案する。

80 年代には「ドラゴンボール」や「北斗の拳」、90 年代には「SLAMDUNK」や「新世紀エヴァンゲリオン」、2000 年代では「ONE PIECE」や「進撃の巨人」などといった各世代で大流行したマンガ・アニメが存在する。そこで、球場内にマンガのキャラクターやアニメ声優によるアナウンスなどを取り入れることで、球場内の雰囲気が今までになく新しいものにもなるが、懐かしい雰囲気も味わえる場所として提供することができる。よって、多世代に人気を誇る「マンガ・アニメ」の世界観を球場に導入することは集客効果が期待できると考える。

#### 4. (2). ウ コンテンツ 3「お笑い」

日本のエンターテイメントの代表として「お笑い」というジャンルが存在する。お笑いは今や日本のテレビ界には欠かせない存在となっており、特に場の雰囲気を盛り上げるといった分野に関しては、抜群の安定度を誇る。さらに 2012 年 2 月に「よしもとクリエイテ

イブ・エージェンシー四国事務所」が愛媛県松山市に開設され、四国でのお笑いの関心度は今後高まってくると考えられる。

そこで、四国アイランドリーグ plus と「よしもとクリエイティブ・エージェンシー四国」が提携し、球場内での活動を行うことで、よしもと側には球場で活動することによる宣伝効果に期待ができる。例えば、NPB では始球式を芸能人やタレントのパフォーマンスを利用することで球場の雰囲気を盛り上げることに成功しており、また芸能人やタレントのファンも球場に足を運ぶきっかけにもなっている。さらに、四国アイランドリーグ側にも球場の雰囲気を盛り上げてもらい、楽しい場という感覚を来場者に浸透させ、リピーターの増加につなげられる Win-Win の環境が成り立つ。

## 5. 実現に向けて

エンターテインメント化を実現する上で大切なことは、いかにスポーツに興味のない人たちを球場に足を運ばせるかである。アニメやマンガ、お笑い、居酒屋など、さまざまなコンテンツを武器にエンターテインメントとして仕上げ、球場にいることが楽しいと思ってもらえるようになることがこの提言の最終目標である。いわゆるテーマパークに足を踏み入れた感覚を肌で感じ取ってもらいたい。チケット（入場料）1,000 円を払って入場し、そのテーマパークには娯楽、食事、試合観戦、イベントそのすべてをこの空間で楽しむことができる。また一試合の集客で多種目、多世代、多志向のターゲットを集めることが可能になるため、世代間交流のきっかけにもなりうるだろう。地域密着型の独立リーグとしては、多世代にわたって、観客動員がなされることは望ましいことだ。

しかし、エンターテインメント化を進める事により、既存の野球ファン離れは避けなければならない。行き過ぎたイベントにより、野球の本来の性質を失うことや、進行を妨げるような内容になってはいけない。また、球場全体の雰囲気を盛り上げることが、観客同士のトラブルにつながる可能性も否定はできないだろう。そういったマイナス要素を可能な限り排除していく丁寧な運営が今後さらに求められる。球場内のスタッフはもちろん増員しなければならないが、独立リーグのスタッフは少人数であることが多いため、近隣の大学生などをボランティアで募るといった動きもひとつの有効な手段だ。

## 6. 参考文献

LDH <<http://www.ldh.co.jp/>>

お笑いナタリー - 毎日読めるお笑いニュースサイト <<http://natalie.mu/owarai>>

ギラヴァンツ北九州 公式サイト <<http://www.giravanz.jp/>>

スポーツナビ+ <<http://www.plus-blog.sportsnavi.com/>>

なんじえいスタジアム@なんJまとめ <<http://blog.livedoor.jp/nanjstu/>>

2015年四国アイランドリーグ plus 開幕会見資料 <[www.iblj.co.jp/direct/topics/topics\\_pdf](http://www.iblj.co.jp/direct/topics/topics_pdf)>

プロ野球 Freak <<http://baseball-freak.com/>>